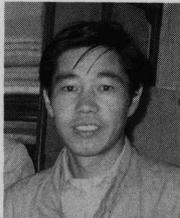


特集 木は、北の住いの原点

パネラー 住宅設計	パネラー 家具	パネラー インテリア	パネラー 木材供給	コーディネーター
 <p>㈱アトリエaku 代表取締役 鈴木敏司氏</p> <p>昭和48年3月 武蔵野美術大学造形学部 建築学科卒業</p> <p>昭和49年5月 アトリエaku 設立</p>	 <p>㈱インテリアセンター商品開発課長 清水 潤氏</p> <p>昭和48年3月 東北工業大学工業意匠学 科卒業</p> <p>昭和55年4月 ㈱インテリアセンター入社</p> <p>昭和61年4月 同 企画部商品開発課長</p>	 <p>旭川インテリアコーディネータークラブ 上山勝巳氏</p> <p>昭和49年3月 東海大学旭川工芸短期大学 建築工芸科卒業</p> <p>昭和53年4月 南上山建設取締役就任</p> <p>平成1年5月 (ソフト部門)スペースデザ インラボ開設 取締役 ※旭川インテリアコーディネ ータークラブ会員</p>	 <p>北星林業㈱代表取締役社長 渡部泰範氏</p> <p>昭和48年3月 中央大学卒業</p> <p>昭和51年2月 北星林業株式会社取締役 社長</p>	 <p>北海道東海大学芸術工学部デザイン学科助教授 三上 純氏</p> <p>昭和48年3月 岩手大学教育学部特設美術 科専攻科卒業</p> <p>昭和61年4月 北海道東海大学芸術工学部 デザイン学科助教授</p>

木造住宅フォーラム特集にあたって

去る10月7日、「住宅とインテリア - 木材の効果的な活用 - 」というテーマで「木造住宅フォーラム」が開催されました。この催しは北海道木質材料需要拡大協議会、北海道林産技術普及協会、北海道建築指導センターが主な実施団体として、林産試験場および木と暮らしの情報館を会場に「木造住宅フェア」の一環として行われたものです。

近年、マイホーム作りも生活水準の向上に伴ない、個性化、本物指向など、高級化しつつあります。

住宅構造、内外装、インテリア、エクステリアなど様々な分野で木の持つ美しさ、暖かさ、やわらかさなど、素材としての木材の良さが見直され、「木のブーム」の再来と言われています。しかし、北海道の木造住宅の割合は、昭和63年度では55%と、昭和50年の80%に比べて一貫して減少しているのが現状です。

一方、今後の住宅建築についてみますと、道民の8割もの人達が木造住宅を求めており、また、住宅に対するニーズも、ゆとりある住環境や高断

熱、高气密などすぐれた居住性を望んでいます。これらの要望に適切に応えてゆくには、北国にふさわしい木造住宅の居住性、施工性の向上やリフォーム技術、そして何よりもデザイン性のすぐれた木製品の開発や住宅設計が大切といえます。

そこで、建築部材メーカーや設計・工務店、インテリアコーディネーター、一般のユーザーなどを対象に、それぞれ第一線で活躍の方々にお集まりいただき、これらの問題を考えることによって木造住宅の良さに対する理解と関心を深め、住宅産業の振興、木材需要の拡大、林業・林産業の振興を図ろうとすることがこのフォーラムの目的です。

パネラーの貴重な提言、コーディネーターのたくみな誘導などもあり、このフォーラムは大変実り多いものとなりました。関係者の許しを得て、本誌に掲載させていただくことにいたしましたので、マイホーム作り、増改築の参考にしていただければ幸いです。

なお、パネラー、コーディネーターの略歴は上記掲載の通りです。

(編集委員会)

1990年1月号